

県研究主題

コミュニケーション能力の素地を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 樋口 憲一（県西地区）

<研究主題>

コミュニケーション能力の素地を育成する学習指導の工夫・改善

— コミュニケーションへの意欲を高める活動を通して —

1 提案内容

(1) 南足柄市の外国語活動の取組

南足柄市では、研究開発学校の指定を受け、小学校5・6年での外国語活動を平成20年度から全国に先駆けて実施している。平成21年に「南足柄英語活動LESSンプラン」を作成し、学級担任と外国語指導助手（ALT）のティームティーチングによる授業を実践してきた。

(2) テーマ設定について

① 学習指導要領の目標より「コミュニケーション能力の素地」を言い換えると、異なる文化の中で生活してきた人や違う言語を話す人と対面した時に「何を言おうとしているのかな?」「どうにかして自分の思いを伝えよう。」というような積極的な姿勢でコミュニケーションをとることであると考え、指導の工夫・改善を図ることが重要だと考えた。

② 児童の実態として、外国語を楽しみにしてはいるが、高学年になったときに、楽しさよりも英語が得意・苦手と語られることもあり、外国語活動に対する苦手意識や意欲の喪失につながる恐れがあった。そこで、英語に親しみ、英語を使ってコミュニケーションをとる楽しさを感じ取れるような取組が必要と考えた。

(3) テーマに迫るための手立て

児童が興味をもって「聞く」インプットの活動、スモールステップを大切にしたアウトプットの活動、自分の考えや思いを表現する活動、文字への興味関心を高める指導上の工夫を通してテーマに迫った。

(4) 授業実践

単元「ランチは何がいい?」で慣れ親しんだ表現を活用し、自由に自分の考えや思いを表現する活動を計画した。What do you like? I like ~. という表現を使うが、児童は自分で考えたことも織り交ぜながら英語で表現していた。

(5) 成果

「得意、苦手」の視点からで外国語活動を捉えるのではなく、活動そのものを楽しむことができ、英語を使って主体的にコミュニケーションを取ろうとする意識の向上が見られた。

(6) 課題

様々な活動を通して英語に慣れ親しめるよう、指導計画の見直しを児童の実態や興味・関心に合わせて継続的に行っていく必要がある。また、自分の思いを表現する活動の充実を図る必要がある。

## 2 協議内容（質疑・応答）

児童たちが前のめりに英語でコミュニケーションをとっている様子を見て、教員の言葉かけや、学校で取り組んでいることを中心に協議された。

コミュニケーションの大切さを気づかせるために、振り返りを書かせる際に、教員が行った言葉かけとして、「どんな気持ちになったのか紙に書いてごらん」と気持ちを問うような言葉かけが有効であった。

1～4年生までの外国語活動では、挨拶や色など、月ごとにトピックを決めて活動をしていることが紹介された。

A L Tと教員が会話のデモンストレーションを見せることによって、ゲームだけでなく、会話のやり取りを楽しむことを児童たちが意識することができた。

学習したこと以上に自分なりのコミュニケーションをとれるようにするために、A L Tとあいづちをうつ場面をデモンストレーションしてみせた。その後に、どのような反応ができるか考えさせることで、自分なり言葉でコミュニケーションをとろうとする児童の姿が見られた。

## 3 まとめ

児童の意欲を高めるためには、楽しさを体験させることが大切である。それは、単に児童が喜ぶものだけではない。新しい表現を習得させるためには繰り返しが大事で、単調にならない工夫が必要である。それには、児童が興味をもつような場面を設定したり、相手の言いたいことがわかった、自分の言いたいことが伝わったと実感させたりする方法が有効である。コミュニケーションが成立した楽しさというのと、難しさを伴うが、達成することで楽しさを実感するだろうと考えられる。

## 提案 2

提案者 安倉 由佳 （相模原地区）

### <研究主題>

小学校から中学校へつなげる外国語活動の授業づくり  
— 文字に慣れ親しむ子どもの姿を目指して —

## 1 提案内容

### (1) テーマ設定の理由

平成 23 年度から始まった外国語活動は、小学校高学年での授業スタイルが確立されつつある。

外国語を通じてコミュニケーション能力の素地を養うことを意識した授業が多く見られるようになった。また、中学校での、「話す」「聞く」の 2 技能においては、小学校での外国語活動の成果が見られるようになってきている。しかし、「読む」「書く」の定着に時間がかかったり、苦手意識をもつ生徒が見られたりする現状もある。新学習指導要領では、高学年において 4 技能（話す・聞く・読む・話す）を扱う知識及び技能を学び、コミュニケーション能力の基礎を養うことが目標となる。そこで、現在行われている外国語活動をもとに、さらに「読む」「書く」の 2 技能に慣れ親しませる授業展開ができないかと考え、テーマを設定した。

(2) テーマに迫るための手立て

- ① 中学校への聞き取り調査
- ② 文字に慣れ親しませる授業づくり
  - ア 授業の流れのパターン化
  - イ 教材・教具の工夫

(3) 実践について

Hi, friends! 1 Lesson 5 “What do you like?”

日常生活の中で使用していることが多い「色」や「形」の表現を知り、“What do you like?”

“I like~.”という表現を使って、好きな色や形を尋ねたり答えたりする活動を行った。その際に、新学習指導要領を意識し、文字で英単語を認識できるようにするために、フラッシュカードを工夫して活動を行った。また、クラスに日本語が話せない中国からの転入生が入ったので、その転入生が英語なら皆と同じように活動できるのではないかと考えた。

(4) 校内体制づくり

- ① 夏休み職員研修
- ② 「英語教育推進リーダー中央研修」の伝達研修後の校内研修
- ③ 誰もがができる指導案と教材・教具の整備

5・6年生がALTとHRTで行う年間18時間分の授業案とHRTだけで行う指導案を作成し、それに合わせて教材・教具も準備した。

(5) 成果と課題

授業の流れのパターン化

児童が見通しをもって取り組むことができた。行動がスムーズになった。英語での指示も理解して動いていた。

(6) 教材・教具の工夫

カードの『表に文字』、『裏に絵』を表示したことで、文字での英単語認識のスムーズステップにつながった。

文字に慣れ親しませる授業全体を通しての成果は、教材の工夫をすることで、文字だけの教材を使った授業を楽しむことができることが分かった。

(7) 校内体制づくり

体験することで、授業の実際を理解できた教員が多かった。教材教具があることで、クラス担任のみで授業をしようとする気持ちが生まれた。

## 2 協議内容

文字を扱う活動の目的についての質問が出た。現在行っている活動を少し工夫することで、文字指導につながることや、読む力や書く力を育成することではなく、それらを通して、コミュニケーション能力の素地を養っていくことが大切であるという確認があった。フォントの選び方について、書くことにつながるために、まずは手書きに近い形のものを使っていき、中学校の中盤以降で様々な文字の様式に触れていくことが大切であるという意見が出た。

教材・教具をつくるのに、誰が、いつ、どのくらいの時間をかけたのかという質問が出

た。それについては、少しずつ学年の教員と相談しながら作ったことや、型を決めておけば効率的に作れるという話が出た。

### 3 まとめ

文字指導に慣れ親しむという活動に特化しているので、チャレンジという意味の提案である。コミュニケーションを行う「目的」「場面」「状況」を外してはいけないので、コミュニケーション活動が含まれている「読む」「書く」活動を行っていくことが大切である。

また、十分に慣れ親しんだ言葉を扱っていく必要がある。フォントは様々であるが、障害をもつ児童への配慮も考えていかなければならない。

外国語活動に対しては、教員によって温度差があるので、今回の研究会の内容をどんどん校内や地域で広めていってほしい。

## ◎協議の柱に即した協議

### 1 協議の柱と主な内容

『小中学校のつながりを意識した外国語活動のあり方について』

#### (1) 目的意識をもたせること

目的、場面、状況を考えてゲームを取り入れたり、授業を構成したりすることが大切である。

ゲームをするにもなぜそれを行うかを考え、ゲームを取り入れた時の問題面も見て授業を作成することが求められる。

#### (2) 交流すること

小中学校でお互いに学習していることを知ったり、お互いに授業を見合ったりする。

系統性をもち、小中学校で統一したレッスンプログラムの作成をする必要がある。

校種混合で研修会をする。

小学校で実践していることを中学校の教員に伝えていく必要がある。

### 2 まとめ

熱い協議となり、とてもよかった。教員によって、外国語活動への考えに差があるので、今回の研究会について幅広く伝えてほしい。2つの提案とも、新旧学習指導要領を意識した提案であった。

<これからの外国語教育に向けて>

#### (1) 母語を身に付けていくプロセスとリンクさせる

『話す→間違い→修正する→書くことに関心が高まってくる→正確に書く』

このようなプロセスを意識し、外国語活動がどうあるべきか考えていく必要がある。

まずはインプットを大切にしていく。

#### (2) 新学習指導要領について

「指導内容」や「時数」、「移行措置の期間はどのように行うのか」という話題が出てくる。

しかし、その前に「どうして変わるのか」「なぜ教科化にするのか」を考えていくことが大切である。また、外国語を使って何ができるようになるのか考えていくことも大切である。